

第14回定例岡山県教育委員会議事録

- 1 日 時 令和6年12月20日(金)
開会13時30分 閉会14時01分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者
- | | |
|--------------|-------|
| 教育長 | 中村 正芳 |
| 委員(教育長職務代理者) | 田野 美佐 |
| 委員(教育長職務代理者) | 梶谷 俊介 |
| 委員 | 上地 玲子 |
| 委員 | 服部 俊也 |
-
- | | |
|----------|-------------|
| 教育次長 | 國重 良樹 |
| 教育次長 | 田中 秀和 |
| 学校教育推進監 | 室 貴由輝 |
| 教育政策課 | 課長 小林 伸明 |
| | 副課長 中江 岳 |
| | 総括副参事 滝澤 容彦 |
| 財務課 | 課長 朝倉 尉雄 |
| 高校魅力化推進室 | 室長 藤原 紳一 |
- 4 傍聴の状況 0名
- 5 報告事項
- (1) 令和6年度11月補正予算(追加分)について
 - (2) 進学希望状況第一次調査結果について
- 6 その他

9 議事の概要

開会

非公開案件の採決

(教育長)

本日の議題の審議に入る前に、議題の公開の可否について決定したい。委員から、議題を非公開とする発議はないか。

(委員全員)

(特になし)

(教育長)

特にないようなので、直ちに審議に入る。

報告事項(1) 令和6年11月補正予算(追加分)について

- ・財務課長から資料により一括説明

報告事項(2) 進学希望状況第一次調査結果について

- ・高校魅力化推進室長から資料により一括説明

(委員)

P9の参考2のリストについて、前年度と比較したリストはあるのか。

(高校魅力化推進室長)

前年度の学校数・学科・コースの総計は、P9の参考2右下の括弧内に記載している。募集定員に満たしていない学科は、今年度、31校57科2コースであり、前年度は、32校54科1コースである。現時点の状況を言えば、全体の学科数の約半数において定員を割っている状況である。

傾向を言うと県北や中山間に設置している学校が厳しい状況にある。

(委員)

志願倍率が厳しい状況だが、要因等について、現時点で分析をしているか。

(高校魅力化推進室長)

最大の要因は、中学校を卒業する生徒数の減少である。定員を減らせば倍率は上がるが、県教委が再編整備基準を定めている中で、募集定員が100名を下回らないことを実施計画に明記している。周辺部についても多くの生徒に希望してもらうためにも、一定程度の定員を確保しておく必要がある。

各学校において、学校の魅力化や広報、地域連携の充実、学科改編に取り組んだ結果、一定の志願者を確保している。しかし、各学校が努力をしてはいるが、生徒募集

に繋がっていない学校もある。また、生徒の都市部に行きたいといった思いを変えられない状況である。

(委員)

先日、矢掛高校に視察して、矢掛高校に行って良かったという生徒の声を聞いたが、昨年度より倍率が低下している今の状況は難しい課題があると感じた。

(高校魅力化推進室長)

矢掛高校については、実施計画ができる前から町も学校へ様々な支援をしてくださっており、感謝している。もしかしたら、もっと早く志願者減が起きていた可能性がある中で維持をしているが、少子化による志願者減や都市部への進学を希望する生徒が一定数いる中で厳しい数字になっていると思う。

(委員)

真庭高校の看護科について、倉敷中央高校と津山東高校の看護科を併願できたと思うが、どの程度いるか。

(高校魅力化推進室長)

毎年何名かいる。今回の調査では、津山東高校看護科も定員が割れており、全体的に看護科への進学希望者が減少しているといえる。

(教育長)

来年度、再編整備基準に該当する可能性があるのは、高梁城南高校のみか。

(高校魅力化推進室長)

そのとおりである。現時点の志願者は108名である。今年度デザイン科の定員を35名から40名に増加した影響もあると思う。今回の調査に全国募集の人数は含まれておらず、県外からの志願者の増加も期待したい。

(委員)

全体的には、通信制への進学希望が多いのか。

(高校魅力化推進室長)

P2の第2表に県内・県外、公立・私立別進学希望状況の表を掲載しているが、近年の上昇傾向が落ち着いてきたと思っている。今年の特徴は、県内私学通信制の学校数が増えた関係で昨年度から0.4ポイント増加した。しかし、県外の私学通信制は昨年度から0.3ポイント低下している。通信制高校全体で見ると、進学希望に大きな変化はない。

近年私学への進学希望者が多かったが、12月1日時点の結果では、9年ぶりに県立全日制の占める割合が増加した。

(委員)

通信制の県内・県外の振り分けについて確認したい。本校が岡山になれば、県外進学とカウントするのか。

(高校魅力化推進室長)

そのとおりである。

(委員)

第1次希望調査を見て、大幅に希望者が私立に流れたりするようなことはないのか。

(高校魅力化推進室長)

現在の公私比率が、8対2である。最終的な入試の実績としては、例年7対3の公私比率になる。

(委員)

津山工業高等専門学校への進学希望者が減少しているが、なにがあったのか。把握しているのか。

(高校魅力化推進室長)

津山工業高等専門学校の志願者の減少について、詳細は把握していない。

(委員)

香川工業高等専門学校を希望する生徒はどの程度いるのか。

(高校魅力化推進室長)

県外の高等専門学校の欄がある。ただし、その全てが香川工業高等専門学校であることはない。

(委員)

P9の参考1のリストについて、募集定員に対する割合の高い学科の傾向について教えてもらいたい。

(高校魅力化推進室長)

昨年も今年も名前が挙がっている学科は、岡山工業高校デザイン科、建築科、情報技術科や西大寺普通・国際情報科などである。岡山工業については、学科によっては、定員割れをしているが、岡山市の中心部に位置しており、生徒に人気の科が複数あることも要因と考える。

一方で家政科などの単科については、40人1学級といったこともあり、年度によって志願者にばらつきがある。

閉会